

◆初めて訪問した小川の森

ぼくが初めて小川を訪れたのは、二〇〇五年の秋だった。酒井先生が自身の調査で小川に行くというので、見学に連れていってもらったのだ。京都から新幹線と電車を乗り継いで三時間半かけて茨城県つくば市まで行き、そこからさらに車で二時間。そんな遠いところまで来ての最初の感想は、すいぶん寒いなあ、というものだった。小川は茨城県の北端、福島県との県境に近い北茨城市にあるのだが、標高は六百五十メートルほどもあり、寒さは東北地方の北部と同じくらいのことだった。木々も葉を落としており、景色も寒々しいものだった。

今回の酒井先生の調査目的は、ハリギリ（針桐、桐のような材質で幹にトゲがある）の果実採集だった。先生は目当てのハリギリを見つけると、木の枝からぶら下がっていたロープを使ってグイグイと登り始めた。高さ数十メートルの大枝に至ると、そこを足場として果実がついた枝をのこぎりで切り落としはじめた。ぼくはロープ一本ですると木登りをする技術にビックリしていたが、ふと周りを見渡すと、さまざまな木からロープやハシゴがぶら下がっているのが目に入った。きつと、いろんな目的で木に登る人がいるのだろう。なんだかすごいところだなと

←秋の小川の森



ロープを伝ってブナの →
きよぼく
巨木に登る。



←山開きの調査風景



木の太さを測る。→

